

## 富士通グループの現況

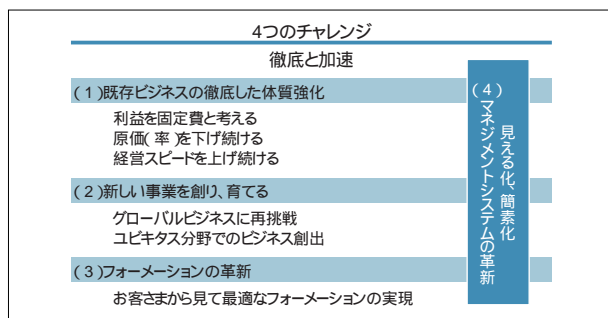
# 強いインフォメ-ションテクノロジーをベースに、 お客さまの求める高性能・高品質のプロダクト、サービスによる トータル・ソリューションを提供する、富士通グループ。

### 2004年度の総括と2005年度の経営方針

#### 2004年度の総括

2004年度は、売上高4兆9,500億円、営業利益2,000億円、純利益700億円を業績目標に掲げ、「既存ビジネスの徹底した体質強化」「新しい事業を創り、育てる」「フォーメーションの革新」「マネジメントシステムの革新」の4つの項目にチャレンジしましたが、残念ながら業績目標はいずれも未達となりました。これは、主として、ソフト・サービス分野において、一部のシステム・インテグレーション(SI)案件の損失が当初の予想を超えて拡大したこと、および電子デバイス分野でディスプレイ・パネルの所要が期初の見通しを大幅に下回ったことによるものです。

これらに対処するため、SIプロジェクトの健全化に向けた施策を実行したほか、電子デバイス分野ではLSI事業に経営資源を集中していく体制を整えました。プラットフォーム事業では、生産革新活動への取り組みが奏功し、利益体質に転換したほか、海外の事業もすべての地域において利益体質に転換するなど、富士通のビジネス全体として健全化を進めました。その一方で、新規事業や成長領域の強化の面では若干課題が残りました。

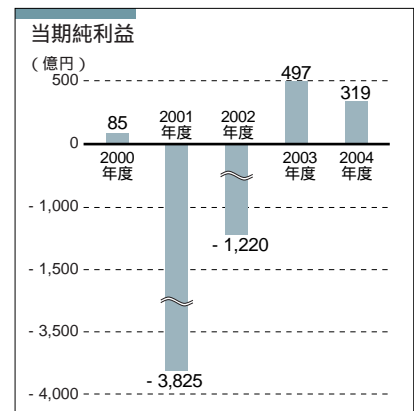
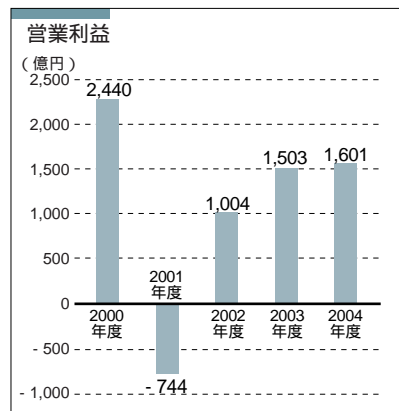
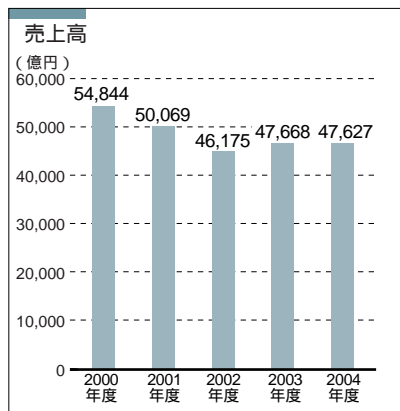


#### 2005年度の経営方針

2005年度は、2004年度に引き続き4つのチャレンジを徹底し、加速させていきます。具体的には、設計・開発、生産、調達などあらゆるプロセスにおける改革を進めることにより原価低減を図り、これにより生み出される利益を商品力の強化などへ再投資していきます。このような継続的な収益改善のスパイラルをつくり、定着させていきたいと考えています。

また、2005年度からは、「新しい事業を創り、育てる」ことを積極的に進めます。具体的には、今後、高い成長が見込まれる海外市場や、中堅企業市場を対象とした事業を強化していきます。また、従来は企業のマネジメント系の業務がIT活用を中心でしたが、実際に人やモノが動く現場でのITの活用が今後の成長領域であると認識し、こうした現場でのITによる変革「フィールド・イノベーション」を進めていきます。具体的には、製造現場や流通の最前線、開発や営業の現場をITで徹底的に効率化し、個人の社会生活においても、旅行や娯楽の現場、医療・介護の現場、教育の現場などさまざまな場面での「元気、安心、感動、便利」の実現に寄与することをめざします。そのために、当社のもつ総合力を活かすとともに、研究開発の成果の事業化を速やかに進めていきます。

これらの施策を通じて、2005年度は、売上高4兆8,500億円、営業利益1,750億円、純利益500億円を業績目標とします。



## 富士通グループの主要な事業

### ソフトウェア・サービス

ソリューション  
CRM、SCM、ERP、ITコンサルティング、ASP  
SI(システム・インテグレーション)  
インフラ・サービス  
インターネット・データセンター、ネットワーク・サービス、アウトソーシング・サービス、マネジメント・サービス、クラウドウェア



インターネット・データ・センター

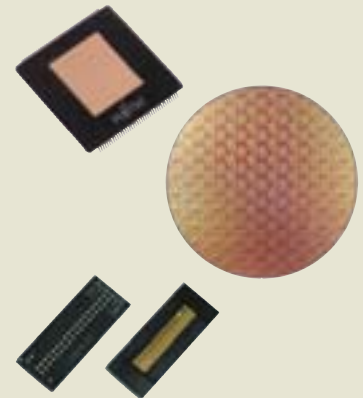
### プラットフォーム

サーバ関連  
サーバ、ストレージ・システム、その他業務用プリンタなど  
モバイル / IPネットワーク  
モバイル通信インフラ、IPネットワーク  
伝送システム  
SONET、WDMシステム  
パソコン / 携帯電話  
個人向けパソコン、企業向けパソコン、携帯情報端末、携帯電話  
その他  
HDD(小型磁気ディスク装置)



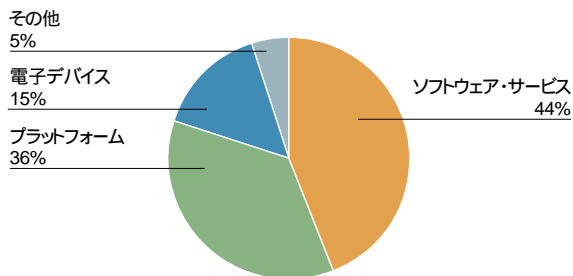
### 電子デバイス

半導体  
ロジックIC、システム・メモリ、システムLSI、化合物半導体  
その他  
メディア・デバイス、コンポーネント

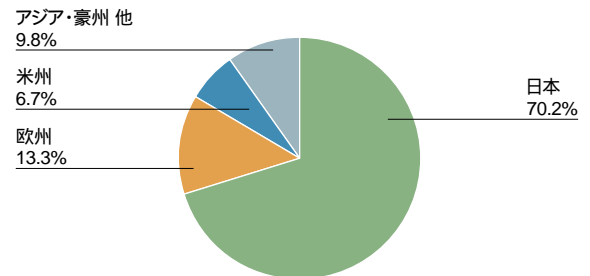


2005年度よりセグメント区分をテクノロジーソリューション、コピキタスプロダクトソリューション、デバイスソリューションに変更しています。

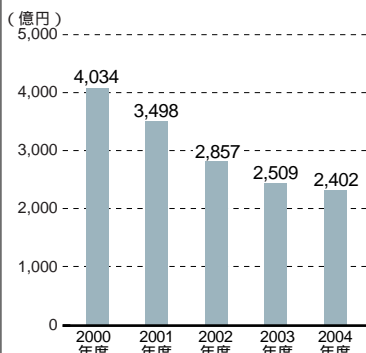
事業の種類別セグメント情報(外部顧客に対する売上高比率)



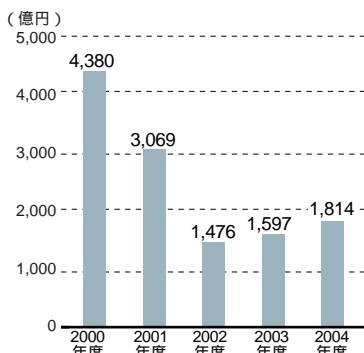
所在地別セグメント情報(海外売上高比率)



研究開発費



設備投資費



従業員推移(連結 / 単独)

